



寄附をいただいた方へのインタビューⅧ

「文化財を守り伝える京都府基金事務局では、御寄附をいただいた方々へのインタビュー記事を掲載し、京都の文化や文化財への御意見、さらに「基金」の取組への御指導などをいただいています。

一般財団法人日新電機グループ社会貢献基金（小畑 英明 理事長）

●日新電機グループは創立 100 周年を迎えられたそうですね

1917年に京都の地で創立し、今年でちょうど100年になります。電気計器や積算電力計に始まり、電機事業を中心に産業のインフラづくりに力を尽くしてきました。こうして100年にわたって事業を継続することができたのは、多くのステークホルダーの御支援と、素晴らしい産業の集積をもった京都で事業をしてきたお陰と感謝しています。

そこで、創立100年記念事業の一環として、2017年3月に「一般財団法人日新電機グループ社会貢献基金」を設立しました。



本社に設置された記念碑
文字は下鴨神社の宮司による揮毫

●財団ではどのような活動をされるのですか？

当財団は、日新電機グループの社会貢献活動をより広く社会に公開し、活動の安定性・継続性を確保することを目的とし、次の3つを事業の柱としています。

1つ目は「技術系人材の育成」、2つ目は「京都を中心とした歴史的文化財の保護」、そして3つ目は「地域の環境保全活動への協力」です。こ

れらを事業の柱とした理由と活動内容について御紹介します。

(1)技術系人材の育成

日本の産業が成長を続けていくためにはイノベーションを生み出す技術系人材の育成が不可欠だと考えています。

そこで日本の産業を支える技術系人材の裾野拡大に向けた諸活動に取り組むとともに、給付型奨学金制度「日新電機グループ奨学金」を運用し、高度な技術を身に付けようと向上心に燃える優秀な学生・生徒を支援しています。

(2)京都を中心とした歴史的文化財の保護

日新電機グループが生まれ育った京都には多くの歴史的文化財があり、それらの保護には多くの資金が必要です。日新電機では、文豪・谷崎潤一郎の旧邸「石村亭（せきそんてい）」を保有しており、谷崎との約束を守り、その趣や佇まいを変えずに60年間維持・保存に努めてきました。京都に根差した企業として、石村亭だけではなく、より多くの歴史的文化財の保護に貢献していきます。



石村亭の母屋と中庭

(3)地域の環境保全活動への協力

自然環境の保全は人類社会の最大の課題と捉え、ごみ削減や森林保全などの環境保全活動に協力しています。



祇園祭ごみゼロ大作戦に協力

●給付型奨学金は政府の取り組みとしても注目されていますよね

就職などの制約のない給付型奨学金はまだ珍しいようで、大学側からも喜ばれています。

「日新電機グループ奨学金」は、電気系だけでなく、広く技術系分野の研究に携わる学生を対象に、大学院の2年間にわたって奨学金を給付する制度です。現在は1期生8名、2期生14名の計22名を支援しています。

奨学生には年に1度、京都での研究報告会・交流会に参加し、1年間の研究活動を報告してもらいます。日新電機の役員や研究所長、奨学生の在籍大学のOBにあたる社員などが出席し、質問や激励の言葉をかけるなどして、学生と交流を深める機会も作っています。



研究報告会

●今回「文化財を守り伝える京都府基金」に御寄附いただいたきっかけは？

谷崎潤一郎の旧邸「石村亭」を維持保存するために、2014年度には築100年の母屋を解体修理し、2015年度には庭の整備などを進めてきました。地元京都には、文化的価値を有しながら、同様に修理が必要な建造物が他にもあるものと考え、京都府に協力を申し出ました。

京都府基金は、府内に所在する歴史的建造物の保存、修理、防火対策などの文化財保護に用途を限定されており、当財団としても事業の趣旨に賛同できました。

寄附のお礼として、清水寺の夜間特別拝観の前日に御招待いただき、参加した社員や家族の皆さんは、人の少ない貴重な清水寺を堪能できたようです。この寄附を通じて社会に貢献するとともに、社員にも喜んでもらうことができました。

●今後について

当財団は公益財団法人への移行準備をすすめています。文化財保護をはじめ各方面で活躍され経験豊富な理事の方々の御意見を伺いながら、社会とより一体となった事業運営を目指していきます。



京都本社 100周年記念碑の前で